

【草花の部屋】

ツリガネスイセン

(キジカクシ科ツリガネスイセン属 *Hyacinthoides hispanica*)

和名：ツリガネスイセン(釣鐘水仙)

別名：ブルーベル、シラー・カンパニュラータ **英名**：Spanish bluebell

キジカクシ目 球根多年草 **原産地**：ヨーロッパ、北アフリカ

花言葉：不変、恋の呼びかけ、冷静、哀れ、淋しい、変わらない愛 他



花色：白、桃、青紫

← 写真-1 ツリガネスイセン

撮影日：2020年04月27日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

▽ 写真-2 ツリガネスイセン

撮影日：2020年04月28日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



↑ 写真-3 ツリガネスイセンの花

撮影日：2020年04月28日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



→ 写真-4 ツリガネスイセンの花
撮影日：2020年04月27日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：M さん



明治時代末期に導入された球根草で、名前の由来は、花がツリガネ(釣鐘)状で、葉がスイセン(水仙)に似ることからだそうです。葉は20~60cmの剣状。春、茎頂に総状花序をだし、3cm程の筒状釣鐘形の花をつけ、花壇や鉢植えなどで利用されています。花冠は6裂し、花色は青紫が多く、淡紅色や白色のものもあります。地下茎部分に毒があるので要注意です。

スイセン(水仙)となっていますが、葉の形が似ているからで、スイセン(水仙)の仲間ではありません。ちなみにスイセン(水仙)はヒガンバナ科です。

ツリガネスイセン属は、ヒアシンス(Hyacinthus)やシラー(Scilla)に近い仲間、以前はシラー属に分類されていました。このうち、ヒアシンソイデス・ヒスパニカ(H. hispanica)など7種があり、主にヒアシンソイデス・ヒスパニカ(H. hispanica)とヒアシンソイデス・ノンスクリプタ(H. non-scripta)の2種が栽培されているそうです。いずれもいくつかの園芸品種があり、両者の交配によって育成されたものもあるそうです。

ヒスパニカ種は「スパニッシュ・ブルーベル」または「シラー・カンパニユラータ」の名前で流通することも多く、やや細長い釣り鐘形の花が穂になって10輪くらい咲き、品種によっては20輪くらいつくこともあり、ムスカリの花が終わるころ、入れ代わるように咲き始め、群生させると一面に咲いてブルーのカーペットのようになります。ノンスクリプタ種は「イングリッシュ・ブルーベル」とも呼ばれ、花穂は細身で、花茎の上部が曲がって枝垂れるように咲き、花は片方向に寄っています。

<ちょっと一言>

*ヒアシンス科、ユリ科で記載されている書籍もあります。